

令和 2 年 10 月 入 学

令和 3 年 4 月 入 学 (第 1 次・第 2 次募集)

三重大学大学院生物資源学研究科

(博士後期課程)

学 生 募 集 要 項

三 重 大 学

目 次

○入学者受入方針(アドミッションポリシー)

○令和2年10月入学

1. 募集人員	2
2. 出願期間, 試験日, 合格発表	2
3. 選抜の方法	3
4. 出願資格	4
5. 出願資格審査について	6
6. 出願書類等	7
7. 入学手続	9
8. 入学料および授業料	9
9. 注意事項	9

○令和3年4月入学(第1次・第2次募集)

1. 募集人員	12
2. 出願期間, 試験日, 合格発表	13
3. 選抜の方法	14
4. 出願資格	15
5. 出願資格審査について	18
6. 出願書類等	19
7. 入学手続	21
8. 入学料および授業料	21
9. 注意事項	21

○令和2年10月入学・令和3年4月入学(第1次・第2次募集) 共通事項

1. 連携大学院	24
2. 外国人留学生特別選抜(指定校推薦)	24
3. 社会人特別選抜の主旨	25
4. 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例による教育の実施について	25
5. 長期履修学生制度について	26
6. 障がいのある入学志願者との事前相談について	27
7. 入学検定料の返還について	28
8. 過去の入試問題について	28
9. 個人情報の利用について	28

○専攻, 講座および教育研究分野の内容等

1. 資源循環学専攻	30
2. 共生環境学専攻	34
3. 生物圏生命科学専攻	38

出願書類等

1. 入学志願票
2. 写真票・受験票
3. 研究業績書
4. 進学証明書
5. 入学検定料(振込通知書)
6. 入学検定料納付票
7. 受信先シール
8. 返信用封筒
9. 出願資格認定申請書

本研究科では，令和２年１０月入学生および令和３年４月入学生を募集します。

令和３年４月入学生の募集においては，第１次募集および第２次募集を実施します。

詳細については，該当ページをご確認ください。

入学者受入方針（アドミッションポリシー）

本研究科は、衣・食・住に関わる生物資源の生産・利用および環境の保全と修復を中心課題として自然の調和に配慮した教育・研究を展開することを目標としています。これによって、深い専門知識と目標達成能力および学際的・創造的視野をもつ先端的高度技術者と研究者を養成し、同時に生物資源学の確立と発展を目指しながら、その学術的・技術的成果を積極的に社会に還元することを目的としています。

このような目的を達成するために、本生物資源学研究科には

資源循環学専攻 共生環境学専攻 生物圏生命科学専攻

の3専攻があり、それぞれ博士前期課程と博士後期課程が設置されています。

博士後期課程アドミッションポリシー

生物資源学研究科が掲げる基本理念および教育目的に示す研究者を養成するため、以下の素養を備えている人を受け入れます。

- (1) 生物資源の適正な開発・利用と環境保全に深い関心と意欲のある人。
- (2) 自然科学に深い興味を持ち、生物資源に関する専門的な深い知識と高い学力のある人。
- (3) 生物資源とその環境に関する研究を遂行するための高い能力を自ら研鑽し、修養できる人。
- (4) 優れた識見と高い語学能力を持ち、国際的に通用するコミュニケーション力を身につけることのできる人。

上記の素養のある学生を選抜するため、以下の入学試験を実施します。

- 1) 一般選抜
専門科目（筆記）で上記(2)を、外国語（英語）で上記(4)を、口述試験で上記(1)、(2)、(3)を評価し、選抜します。
- 2) 社会人特別選抜
外国語（英語）で上記(4)を、口述試験で上記(1)、(2)、(3)を評価し、選抜します。
- 3) 外国人留学生特別選抜
外国語（日本語又は英語）で上記(4)を、口述試験で上記(1)、(2)、(3)を評価し、選抜します。

令和 2 年 1 0 月 入 学

1. 募集人員

専攻	講座	教育研究分野	募集人員		
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
資源循環学	資源循環システム科学	※食料生産科学, ※森林資源環境学	若干名	若干名	若干名
	国際資源循環科学	国際資源循環科学			
共生環境学	気象・地球システム学	大気海洋地球学, 流域環境創成学, 地球環境解析学	若干名	若干名	若干名
	環境・生産科学	環境情報システム工学, 地域保全学, 生態系循環システム学			
生物圏生命科学	応用生命化学	※生命機能化学, 海洋生命分子化学	若干名	若干名	若干名
	海洋生物科学	※海洋生物学			

※は連携大学院を含む（24ページ参照）

注）出願に際しては、志望する教育研究分野の教員または指導予定教員と事前に必ず連絡をとってから出願してください。

特に、他大学大学院の研究科や専攻あるいはコース等と重複して学籍を持つとする場合は、出願前に必ず相談をしてください。

2. 出願期間 試験日 合格発表

	出願期間	試験日	合格発表
日程	令和2年 7月6日（月） ～ 令和2年 7月10日（金）	令和2年 8月18日（火） （志願者多数の場合 8月19日（水）も実施）	令和2年 9月11日（金）
備考	受付時間：9時から17時 （郵送の場合は期間内に必着）	当日は受験票を必ず持参して試験室に入室してください。 また、一般選抜および社会人特別選抜志願者は、TOEIC®のスコアシートも必ず持参してください。	午前10時頃、生物資源学研究科玄関ホールに、合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者本人宛に郵送で通知します。また、合格発表後、生物資源学研究科ホームページ(http://www.bio.mie-u.ac.jp/)にも合格者の受験番号を掲載します。 電話等による可否の問い合わせには一切応じません。

注）試験日および受験上の注意事項は、別途志願者へ通知します。

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、それぞれの選抜に科されている学力検査、提出書類の審査および口述試験の結果を総合して行います。

(1) 一般選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外国語（英語） （TOEIC [®] スコアの提出）	10:00 ～ 10:10	試験室においてTOEIC [®] スコアシートの原本を集めます。 （当日のうちに返却します。）
筆記試験 専門科目	10:30 ～ 12:30	志望する教育研究分野の基礎となる科目
口 述 試 験	14:00 ～	修士論文又は研究経過報告書および研究計画書等について行います。

本研究科博士前期課程を修了し、引き続き本研究科博士後期課程に進学することを希望する者で、次のいずれかに該当する者は、筆記試験が免除されるとともに、TOEIC[®]スコアについては、以下の注1で定めたものを提出する以外に、博士前期課程入学試験時提出のTOEIC[®]スコアを再提出することが可能です。ただし、本研究科博士前期課程に外国人留学生特別選抜で入学した者は、上記の外国語および筆記試験が免除されます。

ア 博士前期課程在学時と同一の指導教員の教育研究分野に進学する者

イ ア以外の者で、受入予定の専攻において認められた者

(2) 社会人特別選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外国語（英語） （TOEIC [®] スコアの提出）	12:30 ～ 12:40	試験室においてTOEIC [®] スコアシートの原本を集めます。 （当日のうちに返却します。）
口 述 試 験	13:00 ～	研究業績書および研究計画書について行います。

一般選抜および社会人特別選抜における外国語（英語）の評価方法について

一般選抜および社会人特別選抜においては、TOEIC[®]（Test of English for International Communication）のスコアによる英語の評価を行います。一般選抜および社会人特別選抜の受験者は、各自でTOEIC[®]を受験し、スコアシートの原本を入学試験実施日に持参し、上記の提出時間に指示に従って提出してください。

注1：評価の対象として有効なスコアは、入学試験実施日の4年前以降に実施され、かつ入学試験実施日に提出可能な公開テスト及び各種団体が主催するTOEIC IPテスト（各大学生協主催のカレッジTOEIC[®]、三重大学教養教育院教養基盤科目部門英語学科科目主催のTOEIC IPテストを含みます。）のものとし、TOEIC[®]スピーキングテスト／ライティングテストやTOEIC Bridge[®]、TOEIC LPI[®]のスコアは評価の対象となりません。

注2：時間内にスコアシートを提出できない場合は、不合格となります。その場合でも検定料の返還は行いませんのでご注意ください。

注3：複数回受験した場合は、いずれか一つのスコアシートを提出してください。

注4：TOEIC®受験にかかる費用は、志願者の自己負担となりますのでご了承ください。

注5：TOEIC®の詳細についてはTOEIC 運営委員会に直接問い合わせるか、TOEIC®公式ホームページ
[<http://www.toeic.or.jp/toeic/>] を参照してください。

(3) 外国人留学生特別選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外 国 語 (日本語又は英語)	10:30 ～12:00	語学辞書(1冊)の持ち込みを認めます。 (電子辞書は不可)
口 述 試 験	13:00 ～	基礎および専門の学力・修士論文又は研究経過 報告書および研究計画書等について行います。

4. 出願資格

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者および令和2年9月30日までに修士の学位又は専門職学位を取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学(以下「国際連合大学」という。)の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年9月1日文部省告示第118号)
大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、令和2年9月30日までに2年以上研究に従事する者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。
- (8) 本研究科において、個別の資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、令和2年9月30日までに24歳に達する者

【社会人特別選抜】

企業等に勤務する者で、原則として2年以上（入学時）研究に従事し、入学後も引き続き勤務が見込まれる次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）

大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、令和2年9月30日までに2年以上研究に従事する者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。

【外国人留学生特別選抜】

日本の国籍を有しない者で、修学に必要な程度の日本語能力があり、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (3) 日本において修士の学位を取得した者および令和2年9月30日までに修士の学位又は専門職学位を取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和2年9月30日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）

大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、令和2年9月30日までに2年以上研究に従事する者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。

(8) 本研究科において、個別の資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和2年9月30日までに24歳に達する者

5. 出願資格審査について

下記の出願資格で出願しようとする者は、個別の出願資格審査を行いますので、事前に生物資源学研究科事務室（〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL <059> 231-9631）に照会してください。また、必ず志望する教育研究分野の教員又は指導予定教員と事前に連絡をとってから書類を提出してください。

記

一 般 選 抜 : 出願資格（6）（7）（8）で出願する者
社会人特別選抜 : 出願者全員
外国人留学生特別選抜 : 出願資格（6）（7）（8）で出願する者

(1) 出願資格事前審査書類提出期間

令和2年 5月18日（月）～ 5月22日（金）

（受付時間は9時から17時で、郵送（書留速達に限る。）の場合は、期間内に必着とします。）

(2) 出願資格事前審査結果通知期日

令和2年 7月 1日（水）以降

(3) 事前審査出願書類

7ページまたは8ページの表に記載された出願書類（入学検定料、入学検定料納付票を除く。）をすべて提出してください。

一般選拔出願資格（6）（7）（8）、社会人特別選拔出願資格（6）（7）および外国人留学生特別選拔出願資格（6）（7）（8）に該当する者の認定は、提出書類による研究遂行能力の審査を行った後に、学力審査（筆記試験あるいは口頭試問等）を行い、両方の審査結果に基づいて認定します。

ただし、研究遂行能力が不十分と判断される場合は、資格がないものと判定し、学力審査を行いません。

社会人特別選拔出願資格（1）～（5）の出願資格の認定は、提出書類等の審査に基づいて行います。

審査の結果「出願資格あり」と認定された場合は、出願期間内（令和2年7月6日～7月10日）に検定料（30,000円）をお支払いください。出願書類は再度提出していただく必要はありません。

6. 出願書類等

【出願資格：一般選抜（1）～（5），社会人特別選抜（1）～（5），外国人留学生特別選抜（1）～（5）】

（1）志願者は、下記の書類を取りそろえて提出してください。○印の書類は全員が必要です。（△は該当者のみ）

出 願 書 類	摘 要	一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
入 学 志 願 票 写真票・受験票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入してください。 出願日前3ヶ月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○	○
修 士 課 程 修 了 （見 込 み）証明書	現在、三重大学大学院生物資源学研究科博士前期課程に正規生として在籍する方は不要です。それ以外の方は必要です。	△	△	△
成 績 証 明 書	学部成績証明書	○	○	○
	大学院修士課程（博士前期課程）の成績証明書	○	○	○
修 士 の 学 位 論 文 要 旨 等	ア. 修士の学位を有する方は、学位論文の要旨を2000字以内で記入してください。 イ. ア以外の方は、2000字以内で研究経過を記入してください。	○	○	○
研 究 業 績 書	本研究科所定の用紙	○	○	○
研 究 成 果 資 料	出願者の著書、学術論文、学術報告、学会発表、特許等がある場合は、それを示す資料を添付してください。共同研究の場合は、出願者が担当した部分を明確にした資料を添付してください。	△	△	△
研 究 計 画 書	本研究科所定の用紙に博士後期課程での研究（希望）計画（A4版1枚（1000字程度（図・表等を含めることも可）））を記入してください。なお、作成にあたっては、志望する指導予定教員に問い合わせてください。 用紙は、次よりダウンロードすること。 URL： http://www.bio.mie-u.ac.jp/juken_d_dl/	○	○	○
進 学 証 明 書	三重大学大学院生物資源学研究科博士前期課程を修了し、引き続き生物資源学研究科博士後期課程に進学することを希望する方で、同一指導教員の教育研究分野に進学することを希望する方は提出してください。（他研究科からの進学希望者は該当しません）	△	—	—
出願資格認定申請書		—	○	—
返 信 用 封 筒	本研究科所定の封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、374円分の切手（速達）を貼ってください。	○	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料30,000円（ 国費外国人留学生および三重大学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程へ進学することを希望する方は不要です。 ） 本研究科所定の振込用紙に必要事項を記入し、切り離さずに最寄りの金融機関（銀行・信用金庫・農協など）の窓口に入学金検定料を添えて提出してください。（ただし、ゆうちょ銀行およびATMでは取り扱いできません。）	△	○	○
入学検定料納付票	振込が済めば振込証明書を受け取り、金融機関の受領印が押されているのを確認した後、「入学検定料納付票」の所定欄に貼って、他の出願書類とともに提出してください。 なお、受取書は志願者本人の領収書となりますので、大切に保管してください。			
受 信 先 シ ー ル	合格通知書、入学手続等の書類の送付先を記入してください。	○	○	○
健 康 診 断 書	出願期間中に外国に在住している者（日本国籍を有する者を含む）で、受験するために新たに渡日する者は、健康診断書（本学所定の様式）を提出してください。詳細は下記アドレスで確認してください。 URL（日本語）： http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health2/index.html URL（English）： http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△	△
そ の 他	外国人留学生は、「入国査証（visa）」の写を提出してください。	△	△	○

（2）出願方法 出願書類等を郵送（書留速達）又は持参してください。

（3）提出先 三重大学大学院生物資源学研究科事務室（〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 TEL (059) 231-9631）

【出願資格：一般選抜（６）（７）（８），社会人特別選抜（６）（７），外国人留学生特別選抜（６）（７）（８）】

（１）志願者は、下記の書類を取りそろえて提出してください。○印の書類は全員が必要です。（△は該当者のみ）

出 願 書 類	摘 要	一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
入 学 志 願 票 写 真 票 ・ 受 験 票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入してください。 出願日前３ヶ月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○	○
卒 業 証 明 書	学部等の卒業証明書	○	○	○
成 績 証 明 書	学部等の成績証明書	○	○	○
研 究 業 績 書	本研究科所定の用紙	○	○	○
研 究 成 果 資 料	出願者の著書、学術論文、学術報告、学会発表、特許等がある場合は、それを示す資料を添付してください。共同研究の場合は、出願者が担当した部分を明確にした資料を添付してください。	△	△	△
研究業績の概要	第１行目に研究題目、第２行目に氏名を表記し、Ａ４版の用紙３枚(4000字程度(図・表等を含めることも可))以内で、出願者の研究業績の概要を論文・総説スタイルで記入してください。	○	○	○
研 究 計 画 書	本研究科所定の用紙に博士後期課程での研究（希望）計画（Ａ４版１枚(1000字程度(図・表等を含めることも可))）を記入してください。なお、作成にあたっては、志望する指導予定教員に問い合わせてください。 用紙は、次よりダウンロードすること。 URL： http://www.bio.mie-u.ac.jp/juken_d_dl/	○	○	○
出願資格認定申請書		○	○	○
返 信 用 封 筒	本研究科所定の封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、374円分の切手（速達）を貼ってください。	○	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料30,000円（ 国費外国人留学生および三重大学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程へ進学することを希望する方は不要です。 ） 本研究科所定の振込用紙に必要事項を記入し、切り離さずに最寄りの金融機関（銀行・信用金庫・農協など）の窓口に入学金検定料を添えて提出してください。（ただし、ゆうちょ銀行およびＡＴＭでは取り扱いできません。）	△	○	○
入学検定料納付票	振込が済めば振込証明書を受け取り、金融機関の受領印が押されているのを確認した後、「入学検定料納付票」の所定欄に貼って、他の出願書類とともに提出してください。 なお、受取書は志願者本人の領収書となりますので、大切に保管してください。			
受 信 先 シ ー ル	合格通知書、入学手続等の書類の送付先を記入してください。	○	○	○
健 康 診 断 書	出願期間中に外国に在住している者（日本国籍を有する者を含む）で、受験するために新たに渡日する者は、健康診断書（本学所定の様式）を提出してください。詳細は下記アドレスで確認してください。 URL（日本語）： http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health2/index.html URL（English）： http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△	△
そ の 他	外国人留学生は、「入国査証（visa）」の写を提出してください。	△	△	○

（２）出願方法 出願書類等を郵送（書留速達）又は持参してください。

（３）提 出 先 三重大学大学院生物資源学研究科事務室（〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 TEL 〈059〉231-9631）

7. 入学手続

入学手続に必要な書類は、合格通知書とともに送付します。

注) 在職者は、所属長の入学承諾書が必要です。

8. 入学料および授業料

- (1) 入学料 282,000円 (国費外国人留学生および本学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する方は不要です。)

- (2) 授業料 前期分 260,400円 } (国費外国人留学生は不要です。)
年 額 520,800円 }

注) 在学中に授業料の改定が行われた場合には改定された新授業料が適用されます。

9. 注意事項

- (1) 出願書類に記入もれ等不備がある場合は、受理しないことがあります。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載内容があった場合は、入学決定後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 試験当日は、必ず本研究科が交付した受験票を持参してください。

一般選抜および社会人特別選抜志願者は、TOEIC[®]スコアシートも必ず持参してください。

なお、試験開始時刻に遅れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。一般選抜 外国語（英語）での10:10以降の遅刻、社会人特別選抜 外国語（英語）での12:40以降の遅刻およびその他の試験での30分を経過した遅刻の場合、当該教科およびその後の受験を認めません。

机の上に置けるものは、受験票・黒鉛筆・黒シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り・時計（時計の機能のみ）・眼鏡・目薬・ティッシュペーパー（袋から出したもの）です。

携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、計算機等の電子機器は、使用できません。

外国人留学生特別選抜の外国語（英語または日本語）の試験では、語学辞書1冊（電子辞書は不可）の使用を認めます。

- (4) 募集要項を郵送で請求する場合

請 求 先 〒514-8507 津市栗真町屋町1577 三重大学大学院生物資源学研究科事務室

請求用封筒 『博士後期課程学生募集要項請求』と表記してください。

返信用封筒 角形2号封筒(33cm×24cm)の表に郵便番号・住所・氏名を明記し、250円分の切手（速達郵便の場合は540円分の切手）を貼って、請求用封筒に同封してください。

- (5) 入学試験についての問い合わせは、下記へ行ってください。

〒514-8507 津市栗真町屋町1577 三重大学大学院生物資源学研究科事務室 TEL <059>231-9631

また、災害等により試験日程や選抜内容に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意願います。

三重大学大学院生物資源学研究科ホームページ

URL <http://www.bio.mie-u.ac.jp/>

令和 3 年 4 月 入 学
(第 1 次・第 2 次募集)

1. 募集人員

専攻	講座	教育研究分野	募集人員		
			一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
資源循環学	資源循環システム科学	※食料生産科学, ※森林資源環境学	4名	若干名	若干名
	国際資源循環科学	国際資源循環科学			
共生環境学	気象・地球システム学	大気海洋地球学, 流域環境創成学, 地球環境解析学	4名	若干名	若干名
	環境・生産科学	環境情報システム工学, 地域保全学, 生態系循環システム学			
生物圏生命科学	応用生命化学	※生命機能化学, 海洋生命分子化学	4名	若干名	若干名
	海洋生物科学	※海洋生物学			

※は連携大学院を含む（24ページ参照）

注1) 出願に際しては、志望する教育研究分野の教員または指導予定教員と事前に必ず連絡をとってから出願してください。

特に、他大学大学院の研究科や専攻あるいはコース等と重複して学籍を持とうとする場合は、出願前に必ず相談をしてください。

注2) 各専攻とも第1次募集および、第2次募集を行います。（募集人員は第1次募集、第2次募集の合計です。）

2. 出願期間 試験日 合格発表

	出 願 期 間	試 験 日	合 格 発 表
第1次 募 集	令和2年 7月6日 (月) ～ 令和2年 7月10日 (金)	令和2年 8月18日 (火) (志願者多数の場合 8月19日 (水) も実施)	令和2年 9月11日 (金)
第2次 募 集	令和2年12月7日 (月) ～ 令和2年12月11日 (金)	令和3年 1月19日 (火) (志願者多数の場合 1月20日 (水) も実施)	令和3年 2月12日 (金)
備 考	受付時間：9時から17時 (郵送の場合は期間内に必着)	当日は受験票を必ず持参して 試験室に入室してください。 また、一般選抜および社会人 特別選抜志願者は、TOEIC [®] の スコアシートも必ず持参してくだ さい。	午前10時頃、生物資源学研究科玄 関ホールに合格者の受験番号を掲 示するとともに、合格者本人宛に 郵送で通知します。また、合格発 表後、生物資源学研究科ホームペ ージ (http://www.bio.mie-u. ac.jp/) にも合格者の受験番号を 掲載します。 電話等による可否の問い合わせには 一切応じません。

注) 試験日および受験上の注意事項は、別途志願者へ通知します。

3. 選抜の方法

入学者の選抜は、それぞれの選抜に科されている学力検査、提出書類の審査および口述試験の結果を総合して行います。

(1) 一般選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外国語（英語） （TOEIC®スコアの 提 出）	10:00 ～ 10:10	試験室においてTOEIC®スコアシートの原本を集めます。 （当日のうちに返却します。）
筆 記 試 験 専 門 科 目	10:30 ～ 12:30	志望する教育研究分野の基礎となる科目
口 述 試 験	14:00 ～	修士論文又は研究経過報告書および研究計画書等について行います。

本研究科博士前期課程を修了し、引き続き本研究科博士後期課程に進学することを希望する者で、次のいずれかに該当する者は、筆記試験が免除されるとともに、TOEIC®スコアについては、15ページの注1で定めたものを提出する以外に、博士前期課程入学試験時提出のTOEIC®スコアを再提出することが可能です。ただし、本研究科博士前期課程に外国人留学生特別選抜で入学した者は、上記の外国語および筆記試験が免除されます。

ア 博士前期課程在学時と同一の指導教員の教育研究分野に進学する者

イ ア以外の者で、受入予定の専攻において認められた者

また、これらの者の選抜は第2次募集のみで行い、第1次募集では行いません。

(2) 社会人特別選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外国語（英語） （TOEIC®スコアの 提 出）	12:30 ～ 12:40	試験室においてTOEIC®スコアシートの原本を集めます。 （当日のうちに返却します。）
口 述 試 験	13:00 ～	研究業績書および研究計画書について行います。

一般選抜および社会人特別選抜における外国語（英語）の評価方法について

一般選抜および社会人特別選抜においては、TOEIC[®]（Test of English for International Communication）のスコアによる英語の評価を行います。一般選抜および社会人特別選抜の受験者は、各自でTOEIC[®]を受験し、スコアシートの原本を入学試験実施日に持参し、上記の提出時間に指示に従って提出してください。

注1：評価の対象として有効なスコアは、入学試験実施日の4年前以降に実施され、かつ入学試験実施日に提出可能な公開テスト及び各種団体が主催するTOEIC IP テスト（各大学生協主催のカレッジTOEIC[®]、三重大学教養教育院教養基盤科目部門英語学科目主催のTOEIC IP テストを含みます。）のものとし、TOEIC[®]スピーキングテスト／ライティングテストやTOEIC Bridge[®]、TOEIC LPI[®]のスコアは評価の対象となりません。

注2：**時間内にスコアシートを提出できない場合は、不合格となります。**その場合でも検定料の返還は行いませんのでご注意ください。

注3：複数回受験した場合は、いずれか一つのスコアシートを提出してください。

注4：TOEIC[®]受験にかかる費用は、志願者の自己負担となりますのでご了承ください。

注5：TOEIC[®]の詳細についてはTOEIC 運営委員会に直接問い合わせるか、TOEIC[®]公式ホームページ〔<http://www.toeic.or.jp/toeic/>〕を参照してください。

(3) 外国人留学生特別選抜

教 科 等	時 間	摘 要
外 国 語 (日本語又は英語)	10:30 ～12:00	語学辞書（1冊）の持ち込みを認めます。 (電子式は不可)
口 述 試 験	13:00 ～	基礎および専門の学力・修士論文又は研究経過 報告書および研究計画書等について行います。

4. 出願資格

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者および令和3年3月31日までに修士の学位又は専門職学位を取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者

- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）
- 大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、令和3年3月31日までに2年以上研究に従事する者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。
- (8) 本研究科において、個別の資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和3年3月31日までに24歳に達する者

【社会人特別選抜】

企業等に勤務する者で、原則として2年以上（入学時）研究に従事し、入学後も引き続き勤務が見込まれ次のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）
- 大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、令和3年3月31日までに2年以上研究に従事する者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。

【外国人留学生特別選抜】

日本の国籍を有しない者で、修学に必要な程度の日本語能力があり、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を取得した者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 日本において修士の学位を取得した者および令和3年3月31日までに修士の学位又は専門職学位を取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者および令和3年3月31日までに取得見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年9月1日文部省告示第118号）

大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、令和3年3月31日までに2年以上研究に従事する者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者をいいます。
- (8) 本研究科において、個別の資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和3年3月31日までに24歳に達する者

5. 出願資格審査について

下記の出願資格で出願しようとする者は、個別の出願資格審査を行いますので、事前に生物資源学研究科事務室（〒514-8507 津市栗真町屋町1577 TEL <059> 231-9631）に照会してください。また、必ず志望する教育研究分野の教員又は指導予定教員と事前に連絡をとってから書類を提出してください。

記

- 一般選抜 : 出願資格（6）（7）（8）で出願する者
- 社会人特別選抜 : 出願者全員
- 外国人留学生特別選抜 : 出願資格（6）（7）（8）で出願する者

（1）出願資格事前審査書類提出期間

（第1次募集）令和2年 5月18日（月）～ 5月22日（金）

（第2次募集）令和2年11月 2日（月）～11月 6日（金）

（受付時間は9時から17時で、郵送（書留速達に限る。）の場合は、期間内に必着とします。）

（2）出願資格事前審査結果通知期日

（第1次募集）令和2年 7月 1日（水）以降

（第2次募集）令和2年12月 2日（水）以降

（3）事前審査出願書類

19ページまたは20ページの表に記載された出願書類（入学検定料、入学検定料納付票を除く。）をすべて提出してください。

一般選拔出願資格（6）（7）（8）、社会人特別選拔出願資格（6）（7）および外国人留学生特別選拔出願資格（6）（7）（8）に該当する者の認定は、提出書類による研究遂行能力の審査を行った後に、学力審査（筆記試験あるいは口頭試問等）を行い、両方の審査結果に基づいて認定します。

ただし、研究遂行能力が不十分と判断される場合は、資格がないものと判定し、学力審査を行いません。

社会人特別選拔出願資格（1）～（5）の出願資格の認定は、提出書類等の審査に基づいて行います。

審査の結果「出願資格あり」と認定された場合は、出願期間内（第1次：令和2年7月6日～7月10日・第2次：令和2年12月7日～11日）に検定料（30,000円）をお支払いください。

出願書類は再度提出していただく必要はありません。

6. 出願書類等

【出願資格：一般選抜(1)～(5)，社会人特別選抜(1)～(5)，外国人留学生特別選抜(1)～(5)】

(1) 志願者は、下記の書類を取りそろえて提出してください。○印の書類は全員が必要です。(△は該当者のみ)

出 願 書 類	摘 要	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜
入 学 志 願 票 写真票・受験票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入してください。 出願日前3か月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○	○
修 士 課 程 修 了 (見込み) 証明書	現在、三重大学大学院生物資源学研究科博士前期課程に正規生として在籍する方は不要です。それ以外の方は必要です。	△	△	△
成 績 証 明 書	学部の成績証明書	○	○	○
	大学院修士課程(博士前期課程)の成績証明書	○	○	○
修 士 の 学 位 論 文 要 旨 等	ア. 修士の学位を有する方は、学位論文の要旨を2000字以内で記入してください。 イ. ア以外の方は、2000字以内で研究経過を記入してください。	○	○	○
研 究 業 績 書	本研究科所定の用紙	○	○	○
研 究 成 果 資 料	出願者の著書、学術論文、学術報告、学会発表、特許等がある場合は、それを示す資料を添付してください。共同研究の場合は、出願者が担当した部分を明確にした資料を添付してください。	△	△	△
研 究 計 画 書	本研究科所定の用紙に博士後期課程での研究(希望)計画(A4版1枚(1000字程度(図・表等を含めることも可)))を記入してください。なお、作成にあたっては、志望する指導予定教員に問い合わせてください。 用紙は、次よりダウンロードすること。 URL: http://www.bio.mie-u.ac.jp/juken_d_dl/	○	○	○
進 学 証 明 書	三重大学大学院生物資源学研究科博士前期課程を修了し、引き続き生物資源学研究科博士後期課程に進学することを希望する方で、同一指導教員の研究分野に進学することを希望する方は提出してください。(他研究科からの進学希望者は該当しません。)	△	—	—
出願資格認定申請書		—	○	—
返 信 用 封 筒	本研究科所定の封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、374円分の切手(速達)を貼ってください。	○	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料30,000円 (国費外国人留学生および三重大学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し引き続き博士後期課程へ進学することを希望する方は不要です。) 本研究科所定の振込用紙に必要事項を記入し、切り離さずに最寄りの金融機関(銀行・信用金庫・農協など)の窓口に入学金検定料を添えて提出してください。(ただし、ゆうちょ銀行およびATMでは取り扱いできません。)	△	○	○
入学検定料納付票	振込が済めば振込証明書を受け取り、金融機関の受領印が押されているのを確認した後に、「入学検定料納付票」の所定欄に貼って、他の出願書類とともに提出してください。 なお、受取書は志願者本人の領収書となりますので、大切に保管してください。			
受 信 先 シ ー ル	合格通知書、入学手続等の書類の送付先を記入してください。	○	○	○
健 康 診 断 書	出願期間中に外国に在住している者(日本国籍を有する者を含む)で、受験するために新たに渡日する者は、健康診断書(本学所定の様式)を提出してください。詳細は下記アドレスで確認してください。 URL(日本語): http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health2/index.html URL(English): http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△	△
そ の 他	外国人留学生は、「入国査証(visa)」の写を提出してください	△	△	○

(2) 出願方法 出願書類等を郵送(書留速達)又は持参してください。

(3) 提出先 三重大学大学院生物資源学研究科事務室 (〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 TEL (059) 231-9631)

【出願資格：一般選抜（６）（７）（８），社会人特別選抜（６）（７），外国人留学生特別選抜（６）（７）（８）】

（１）志願者は、下記の書類を取りそろえて提出してください。○印の書類は全員が必要です。（△は該当者のみ）

出 願 書 類	摘 要	一 般 選 抜	社 会 人 特 別 選 抜	外 国 人 留 学 生 特 別 選 抜
入 学 志 願 票 写真票・受験票	本研究科所定の用紙に必要事項を記入してください。 出願日前３か月以内に撮影した写真を貼ってください。	○	○	○
卒 業 証 明 書	学部等の卒業証明書	○	○	○
成 績 証 明 書	学部等の成績証明書	○	○	○
研 究 業 績 書	本研究科所定の用紙	○	○	○
研 究 成 果 資 料	出願者の著書、学術論文、学術報告、学会発表、特許等がある場合は、それを示す資料を添付してください。共同研究の場合は、出願者が担当した部分を明確にした資料を添付してください。	△	△	△
研究業績の概要	第１行目に研究題目、第２行目に氏名を表記し、Ａ４版の用紙３枚(4000字程度(図・表等を含めることも可))以内で、出願者の研究業績の概要を論文・総説スタイルで記入してください。	○	○	○
研 究 計 画 書	本研究科所定の用紙に博士後期課程での研究（希望）計画(Ａ４版１枚(1000字程度(図・表等を含めることも可)))を記入してください。なお、作成にあたっては、志望する指導予定教員に問い合わせてください。 用紙は、次よりダウンロードすること。 URL： http://www.bio.mie-u.ac.jp/juken_d_dl/	○	○	○
出願資格認定申請書		○	○	○
返 信 用 封 筒	本研究科所定の封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、374円分の切手（速達）を貼ってください。	○	○	○
入 学 検 定 料	入学検定料30,000円（国費外国人留学生および三重大学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し引き続き博士後期課程へ進学することを希望する方は不要です。） 本研究科所定の振込用紙に必要事項を記入し、切り離さずに最寄りの金融機関（銀行・信用金庫・農協など）の窓口に入学金検定料を添えて提出してください。（ただし、ゆうちょ銀行およびＡＴＭでは取り扱いできません。）	△	○	○
入学検定料納付票	振込が済めば振込証明書を受け取り、金融機関の受領印が押されているのを確認した後に、「入学検定料納付票」の所定欄に貼って、他の出願書類とともに提出してください。 なお、受取書は志願者本人の領収書となりますので、大切に保管してください。			
受 信 先 シ ー ル	合格通知書、入学手続等の書類の送付先を記入してください。	○	○	○
健 康 診 断 書	出願期間中に外国に在住している者（日本国籍を有する者を含む）で、受験するために新たに渡日する者は、健康診断書（本学所定の様式）を提出してください。詳細は下記アドレスで確認してください。 URL（日本語）： http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health2/index.html URL（English）： http://www.mie-u.ac.jp/exam/health/health3.html	△	△	△
そ の 他	外国人留学生は、「入国査証（visa）」の写を提出してください。	△	△	○

（２）出願方法 出願書類等を郵送（書留速達）又は持参してください。

（３）提出先 三重大学大学院生物資源学研究科事務室 （〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 TEL (059) 231-9631)

7. 入学手続

入学手続に必要な書類は、令和3年3月上旬に送付します。

注) 在職者は、所属長の入学承諾書が必要です。

8. 入学料および授業料

- | | | |
|-------------|----------|--|
| (1) 入学料 | 282,000円 | (国費外国人留学生および本学大学院の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学する方は不要です。) |
| (2) 授業料 前期分 | 260,400円 | } (国費外国人留学生は不要です。) |
| 年 額 | 520,800円 | |

注) 在学中に授業料の改定が行われた場合には改定された新授業料が適用されます。

9. 注意事項

- (1) 出願書類に記入もれ等不備がある場合は、受理しないことがあります。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載内容があった場合は、入学決定後であっても、入学許可を取り消すことがあります。
- (3) 試験当日は、必ず本研究科が交付した受験票を持参してください。

一般選抜および社会人特別選抜志願者は、TOEIC[®]スコアシートも必ず持参してください。

なお、試験開始時刻に遅れた場合は、係員に申し出て指示を受けてください。

一般選抜 外国語(英語)での10:10以降の遅刻、社会人特別選抜 外国語(英語)での12:40以降の遅刻およびその他の試験での30分を経過した遅刻の場合、当該教科およびその後の受験を認めません。

机の上に置けるものは、受験票・黒鉛筆・黒シャープペンシル・消しゴム・鉛筆削り・時計(時計の機能のみ)・眼鏡・目薬・ティッシュペーパー(袋から出したもの)です。

携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、計算機等の電子機器は、使用できません。

外国人留学生特別選抜の外国語(英語または日本語)の試験では、語学辞書1冊(電子辞書は不可)の使用を認めます。

- (4) 募集要項を郵送で請求する場合

請 求 先 〒514-8507 津市栗真町屋町1577 三重大学大学院生物資源学研究科事務室

請求用封筒 『博士後期課程4月入学学生募集要項請求』と表記してください。

返信用封筒 角形2号封筒(33cm×24cm)の表に郵便番号・住所・氏名を明記し、250円分の切手(速達郵便の場合は540円分の切手)を貼って、請求用封筒に同封してください。

- (5) 入学試験についての問い合わせは、下記へ行ってください。

〒514-8507 津市栗真町屋町1577 三重大学大学院生物資源学研究科事務室 TEL <059>231-9631

また、災害等により試験日程や選抜内容に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意願います。

三重大学大学院生物資源学研究科ホームページ

URL <http://www.bio.mie-u.ac.jp/>

令和 2 年 1 0 月入学

令和 3 年 4 月入学（第 1 次・第 2 次募集）

共 通 事 項

1. 連携大学院

三重大学大学院生物資源学研究科は、大学院教育の実施にあたり、「国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所」、「国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構」、「国立研究開発法人水産研究・教育機構増養殖研究所」および「太陽化学株式会社」と連携して連携大学院を設置しています。

連携大学院方式について

連携大学院方式とは、連携する研究機関がもつ高度な研究水準(施設・設備・人的資源(技術・方法論))を活用して大学院教育を行うもので、連携機関からは研究者が連携大学院の連携教授および連携准教授として教育研究に参加するとともに、それぞれの研究所が、学生を受け入れ、学生に対する研究指導は、主に連携機関で行います。

三重大学大学院生物資源学研究科

	博士前期課程	博士後期課程
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所	資源循環学専攻 森林資源環境学講座 木質資源工学教育研究分野 自然共生学教育研究分野	資源循環学専攻 資源循環システム科学講座 森林資源環境学教育研究分野
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	資源循環学専攻 農業生物学講座 野菜ゲノム育種学教育 研究分野	資源循環学専攻 資源循環システム科学講座 食料生産科学教育研究分野
国立研究開発法人 水産研究・教育機構 増養殖研究所	生物圏生命科学専攻 海洋生物学講座 発生・代謝機能解析学 教育研究分野	生物圏生命科学専攻 海洋生物科学講座 海洋生物学教育研究分野
太陽化学 株式会社	生物圏生命科学専攻 生命機能化学講座 食品機能学教育研究分野	生物圏生命科学専攻 応用生命化学講座 生命機能化学教育研究分野

2. 外国人留学生特別選抜(指定校推薦)

指定校推薦の試験は、本学との協定校である次の大学の博士前期課程（修士課程）を修了した者又は修了見込みの者で、指定校より推薦を得られる志願者のみ応募できます。入学時期は10月および4月です。

指定校：スリウィジャヤ大学（インドネシア）
パジャジャラン大学（インドネシア）

募集に関する詳細は、別途本研究科（博士後期課程）の外国人留学生特別選抜（指定校推薦）学生募集要項を確認してください。

3. 社会人特別選抜の趣旨

科学技術の著しい進歩に伴い、バイオサイエンスや生態系の科学は、急速に進展したソフトサイエンスであるので、産業界における研究者や高度専門技術者に対する再教育需要が増大すると予想されます。この要請に対応し、さらに経験豊かな人材を社会から受け入れることにより大学院の教育研究を活性化させるため、積極的にその受入れを図ります。このため入学および転入学の資格については修士の学位を有しない者であっても、学部卒業後の研究歴や、その研究成果等により、生物資源学研究科博士後期課程への出願資格を認め受け入れるものです。

4. 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による教育の実施について

近年、大学院における社会人の再教育への要望が高まっていますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は最低 3 年間その勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。

このため、大学院設置基準第 14 条では、「博士課程（博士後期課程）においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定され、社会人の就学に特別措置を行うことが配慮されています。

これらを踏まえ、本研究科では、平成 3 年度から大学院での履修を希望する社会人に対して教育方法の特例による教育を実施しています。

この概要は次のとおりです。

- 1 授業は昼夜開講制とし、通常の授業も受講できるようにします。

夜間は、平日の第 11・12 時限（18:00～19:30）とし、休日は原則として、土曜日・日曜日の第 1・2 時限（8:50～10:20）から第 11・12 時限（18:00～19:30）の間に行います。また、長期休暇期間中に授業を受けることもできます。

- 2 履修計画および研究（希望）計画書は、指導予定教員と相談の上、作成してください。

5. 長期履修学生制度について

長期履修学生制度は、職業等に従事しながら、個人の事情に応じて、柔軟に標準修業年限（3年）を超えて履修し学位等を取得できるようにする制度です。

長期履修学生として認められる修業年限は最大6年となります。それぞれの年（学期）に支払う授業料は、3年間（標準修業年限）に支払うべき授業料総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額となります。（下記【授業料の納入例】参照）

長期履修を希望する者は、「長期履修申請書（本研究科所定の用紙）」および「在職証明書等（在職証明書またはそれに準ずる書類）」を下記提出期限までに、三重大学大学院生物資源学研究科事務室に提出してください。

長期履修申請の審査結果は、後日、合格者本人に通知します。

提出期限

令和2年10月入学：令和2年8月17日（月）まで（土、日、祝日は除く。）

令和3年4月入学（第1次・第2次募集）

：令和3年2月17日（水）まで（土、日、祝日は除く。）

【授業料の納入例】

標準修業年限（3年）

1年目 (520,800円)	2年目 (520,800円)	3年目 (520,800円)	授業料総額 1,562,400円
--------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------

①出願時に申請し、4年の長期履修学生として認められた場合

1年目 (390,600円)	2年目 (390,600円)	3年目 (390,600円)	4年目 (390,600円)
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

$1,562,400 \text{ 円} \div 4 \text{ 年} = 390,600 \text{ 円}$ （1年間の授業料） 授業料総額 1,562,400 円

②出願時に申請し、5年の長期履修学生として認められた場合

1年目 (312,480円)	2年目 (312,480円)	3年目 (312,480円)	4年目 (312,480円)	5年目 (312,480円)
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

$1,562,400 \text{ 円} \div 5 \text{ 年} = 312,480 \text{ 円}$ （1年間の授業料） 授業料総額 1,562,400 円

長期履修申請書（本研究科所定の用紙）は、事前に請求してください。

長期履修学生制度についての詳細は、三重大学大学院生物資源学研究科事務室へお問い合わせください。

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

三重大学大学院生物資源学研究科事務室

電話 059-231-9631

6. 障がい等のある入学志願者との事前相談について

本研究科に入学を志願する者で、次表に該当する障がい等がある者に対しては、受験および就学上特別な配慮が必要となる場合もありますので、出願に先立ち、必ず次により相談してください。

なお、相談の内容によっては、対応に時間を要することもありますので、できるだけ早い時期に相談してください。また、相談の時期後に本研究科を志願することとなった場合及び不慮の事故等により障がいを有することとなった場合は、その時点で速やかに相談してください。

区 分	障 が い の 程 度
視 覚	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障害が高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のものうち、補聴器等の使用によっても通常の話を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢体不自由	1. 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 2. 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱・虚弱	1. 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 2. 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
発達障害	自閉スペクトラム症（自閉症、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害等を含む）、限局性学習障害、注意欠如・多動症等により、何らかの配慮が必要とされるもの
その他	上記以外で、受験上及び修学上の配慮を必要とする程度のもの

「注」日常生活においてごく普通に使用されている補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合も、試験場設等において何らかの配慮が必要となる場合がありますので、事前に相談してください。

事前相談は障がい等のある志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学にあたってより良い方法やあり方を実現するためのもので、障がい等のある方の受験や修学を制限するものではありません。

1. 相談の方法

電話又は FAX などによりあらかじめ本学大学院生物資源学部研究科事務室に連絡した上で、次の内容を記載した相談書（様式は特に定めません。）を、本学大学院生物資源学研究科事務室に郵送などの方法で提出してください。

なお、必要な場合は入学志願者又は出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

- ① 入学志願者の氏名、性別、生年月日、住所、連絡先の電話番号
- ② 出身大学又は大学院等名・卒業・修了（見込み）年月日
- ③ 志望専攻・志望教育研究分野名
- ④ 障害の種類・程度（医師の診断書又は身体障害者手帳等の写しを添付してください。）
- ⑤ 受験および就学上希望する具体的配慮
- ⑥ 出身大学等における生活状況等（主として授業関係）
- ⑦ その他参考となる事項

2. 相談の時期

令和2年10月入学・令和3年4月入学（第1次募集）

令和2年 6月15日（月）まで（土、日、祝日を除く。）

令和3年 4月入学（第2次募集）

令和2年11月30日（月）まで（土、日、祝日を除く。）

3. 相談先

〒514-8507 津市栗真町屋町 1577 三重大学大学院生物資源学研究科事務室

TEL 059-231-9631 FAX 059-231-9634

7. 入学検定料の返還について

入学検定料を払い込んだ後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても払込済の入学検定料は返還しません。

- ① 入学検定料を払い込んだが三重大学に出願しなかった又は出願書類が受理されなかった場合
- ② 入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合

〈返還請求の方法〉

三重大学HP入試情報(<http://www.mie-u.ac.jp/exam/>)に掲載されています「入学検定料の返還について」にしたがって、返還手続きを速やかに行ってください。返還には、入学検定料「振込証明書」が必要になりますので、大切に保管してください。

8. 過去の入試問題

過去3年分の閲覧およびコピーが可能です。

志望する教育研究分野の教員または指導予定教員に問い合わせてください。

9. 個人情報の利用について

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報の利用については、入学者選抜に係わる業務のほか、次のとおりです。

- (1) 合格者の住所・氏名等を入学手続に係わる業務で利用します。
- (2) 入学手続者の住所・氏名等を入学後の学籍管理等の修学に係わる業務並びに健康診断等の保健管理に係わる業務で利用します。
- (3) 入学手続者の住所・氏名等を入学料並びに授業料徴収等の納付金管理に係わる業務で利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、入学料免除および授業料免除並びに奨学生選考等の修学支援に係わる業務で利用します。
- (5) 個人が特定できない形で、統計処理等の付随する業務並びに本学における入学者選抜に関する調査研究で利用します。

本学が取得した個人情報は、法で定められた場合を除き、本人の同意を得ることなく、上記以外の目的で利用または第三者に提供することはありません。

専攻, 講座および教育研究分野の内容

1. 資源循環学専攻

20世紀後半に急速に拡大した食料や石油エネルギーに由来する生活物質の大量生産・大量消費・大量廃棄に基づく生活様式は、便利で快適である反面、深刻な地球温暖化問題や食料問題などを引き起こしている。これらの問題を解決するため、本専攻では以下の2講座を設け、食料生産、生物資源の有効利用、社会システムの構築を中心とした様々な基礎教育を基盤とし、総合力と応用力を養う教育・研究体制を整え、21世紀の食料・環境問題の解決に取り組み、循環型社会の実現を目指す。

1-1 資源循環システム科学講座

人口が増大を続ける現在、地球の限られた資源の持続的利用が人類に求められている。なかでも食料生産の持続性を維持することは、安全でおいしい食品の供給にとどまらず、地球環境の保全、生物資源の循環において重要な役割を担うことにつながる。

また、地球の陸上における生物資源の約90%が集中する森林では、そこに生育する生物の多様性保全ならびに生育環境の保全、森林から産出される木材や分子素材など生物資源の持続的利用が求められている。本講座では、農業生物学や森林資源環境学を基本として、そこから新たに発展させた資源循環システム科学を様々な視点から追究し、世界的な食料問題の解決や森林の多面的な機能など生物資源の持続的利用や、緑豊かで多様な生物によって成り立つ森林生態系の維持に役立てる方法を探求してゆく。

1-2 国際資源循環科学講座

地域社会が直面している現実や取り組まなくてはならない問題と正面から向き合えるように、当講座では、社会科学と自然科学の両分野から積極的な課題教育を導入している。そして、私たち人類の生命基盤である農林水産業の実態や可能性について統合的に思考する能力と、国際社会において地域の自立・発展を目指す視座、およびグローバル社会におけるコミュニケーション力の修得を通して、国際社会における地域の課題に取り組み、地域を発展させることのできる、地域リーダーとなる人材の育成を目指す。

1-1 資源循環システム科学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
食料生産科学	当教育研究分野では、安全かつ高付加価値な食料生産機能の開発および生産性の向上や持続的な生産を目的として研究を行っている。研究対象として、イネ、マメ、果樹、野菜などの農作物および家畜を扱い、分野の目的達成のために植物医科学および昆虫生態学も設置されている。機能開発の論理的基礎を確立するために、生態学から分子生物学に至る様々な研究手法を用いて研究を行う。	教授 掛田 克行 教授 梅崎 輝尚 教授 長菅 輝義 教授 奥田 均 教授 松井 宏樹 教授 中島 千晴 連携教授 布目 司 連携教授 中保 一浩 准教授 諏訪部 圭太 准教授 長屋 祐一 准教授 名田 和義 准教授 伴 智美 准教授 近藤 誠 准教授 塚田 森生 連携准教授 川頭 洋一 連携准教授 柿崎 智博	kakeda@bio.mie-u.ac.jp umezaki@bio.mie-u.ac.jp nkiyoshi@bio.mie-u.ac.jp okudat@bio.mie-u.ac.jp matsui@bio.mie-u.ac.jp chiharu@bio.mie-u.ac.jp nunome@affrc.go.jp nakaho@affrc.go.jp suwabe@bio.mie-u.ac.jp nagaya@bio.mie-u.ac.jp nada@bio.mie-u.ac.jp tomomi@bio.mie-u.ac.jp makok@bio.mie-u.ac.jp tsukada@bio.mie-u.ac.jp ykawazu@affrc.go.jp tkaki@affrc.go.jp

教 育 研 究 分 野	内 容	教 員	e-mailアドレス
森 林 資 源 環 境 学	森林は、世界の陸地の約3割を覆い、陸上の生物現存量が9割にも達する巨大な生物群集である。このため森林は、地球環境の維持に大きな役割を果たす。これと同時に、森林は再生可能な資源が生産される場としても重要である。さらに、森林には国土保全、水源かん養、気候緩和などの環境を調節する機能がある。これらのことから、森林は人間の生活に大きく貢献している。我々の教育研究分野では、生態学、植物学、微生物学、土壌学、化学、物理学、情報科学などを基礎にした講義・演習を通して、森林の特性を理解し、自然環境との調和を保ちながら、その資源と多様な機能を持続的に利用する方法を考究するための教育・研究を行う。	教 授 木佐貫 博光 教 授 松田 陽介 教 授 堤 大三 教 授 石川 知明 教 授 中井 毅尚 教 授 野中 寛 教 授 松村 直人 連携教授 安部 久^{※2} 准教授 鳥丸 猛 准教授 水野 隆文 准教授 沼本 晋也 准教授 板谷 明美 連携准教授 杉山 真樹^{※2} 連携准教授 鳥羽 景介^{※2} 連携准教授 藤本 清彦^{※2} 講 師 松尾 奈緒子	kis@bio.mie-u.ac.jp m-yosuke@bio.mie-u.ac.jp tsutsumi-daizo@bio.mie-u.ac.jp tomo@bio.mie-u.ac.jp jaja@bio.mie-u.ac.jp nonaka@bio.mie-u.ac.jp nma@bio.mie-u.ac.jp torimaru@bio.mie-u.ac.jp tmizuno@bio.mie-u.ac.jp numamoto@bio.mie-u.ac.jp itaya@bio.mie-u.ac.jp naoko@bio.mie-u.ac.jp

※2の教員の指導を希望する場合は、別途、森林資源環境学教育研究分野・教授 松村直人（nma@bio.mie-u.ac.jp）まで申し出てください。

1-2 国際資源循環科学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
国際資源循環科学	地域社会が直面している現実や取り組まなくてはならない問題と正面から向き合えるように、当講座では、社会科学と自然科学の両分野から積極的な課題教育を導入している。そして、私たち人類の生命基盤である農林水産業の実態や可能性について統合的に思考する能力と、国際社会において地域の自立・発展を目指す視座、およびグローバル社会におけるコミュニケーション力の修得を通して、国際社会における地域の課題に取り組み、地域を発展させることのできる、地域リーダーとなる人材の育成を目指す。	教授 常 清秀 准教授 中島 亨 准教授 野中 章久 准教授 関谷 信人 准教授 吉原 佑	chang@bio.mie-u.ac.jp nakajima@bio.mie-u.ac.jp akinonaka@bio.mie-u.ac.jp sekiya@bio.mie-u.ac.jp yoshihara@bio.mie-u.ac.jp

2. 共生環境学専攻

本専攻では、地球とそれが育む多様な生態系から成る地球生命圏の環境を理解し、人間活動と生態系が調和する持続的な生物生産システムの構築を目指し、陸圏・海洋圏・大気圏が複雑に連動する地球生態システムを対象に、気象学・環境科学・生態科学などに根ざした、農学・理学・工学を包含した総合科学的手法の教育・研究を行う。また、この複雑なシステムを数理的に読み解くことで環境変化や気候変動の仕組みを理解し、連動する人類と人間社会の諸課題に応えるために、フィールドワークを援用しながら最先端の教育・研究を行う。

2-1 気象・地球システム学講座

気候変動や異常気象発生などの地球環境の変化は、大気・海洋・土壌・植生・水圏・生態圏と人間・諸動物の活動などから成る地球システムや生態環境システムと連動している。これらシステムを構成する基本構造、変動過程、共生関係や相互作用について、例えば、気象、水循環、海洋循環、地球の進化、風土・テロワール、地形、地球環境保全、動植物の生理生態・生態調和や人間活動について、観察・観測、実験・調査、リモートセンシング、数値解析などを援用して研究する。研究で得られた新たな科学的知見、研究を通して修得した思考力・実践力を活かし、地球と人類の未来を展望でき、次代の文化形成と持続可能な地球社会の構築に貢献でき、そしてグローバルな舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できる人材養成に向けた教育・研究を行う。

2-2 環境・生産科学講座

本講座では、豊かな環境の創造と保全を目指し、高度な科学的ならびに工学的手法を用いて、環境および農林水産業にかかわる諸問題を解決し、グローバルな視点をもって地域の発展に貢献することを目標としている。とくに①生物生態に関する知識を基に、情報処理技術を核とした環境情報の計測・制御・システム工学を手段とする。②農山村地域における豊かで安全・安心な地域環境の創造を目的とする。③自然環境と人間社会を含む生態圏の環境保全技術を対象とする。そして、④地域に根ざした持続的社会的発展に貢献できる人材養成に向けた教育・研究を行う。

2-1 気象・地球システム学講座

教 育 研 究 分 野	内 容	教 員	e-mailアドレス
大 気 海 洋 地 球 学	過去と現在の地球の気候がいかなるプロセスで変動し、未来の地球はどうなるのか？そして人類はそれにどう対処すべきか？我々人類はその答えをまだ得ていない。これが 21 世紀の我々の前に立ちだかる地球環境問題とそれに関連するエネルギー問題である。 人為的影響がない場合の気候変動は、大気と海洋そして固体地球との地球内の相互作用と、太陽活動の変化や隕石の衝突など地球外の影響で短期そして長期に気候が変化している。 当講座では、気候変動の理解と人類の持続的未来のために、気象学・気候力学・海洋気候学・地球システム進化学・未来地球システム学を融合させ、これら地球の現在・過去・未来の気候システムの解明と、人類の対応について研究を行う。	教 授 立花 義裕 教 授 坂本 竜彦 准教授 西井 和晃 准教授 山田 二久次 准教授 万田 敦昌	tachi@bio.mie-u.ac.jp tats@bio.mie-u.ac.jp nishii@bio.mie-u.ac.jp fyamada@bio.mie-u.ac.jp am@bio.mie-u.ac.jp
流 域 環 境 創 成 学	自然環境の保全・修復に配慮しながら、土地・森林・水資源を開発・利用するための計画・設計監理に関する教育研究を行う。即ち、人間生活と自然環境保全の調和の取れた発展、合意形成を目指すため、流域環境評価、生態系管理、環境施設・安全空間の創成など、社会科学的手法や自然科学的手法の有効な統合化方策について教育研究を行う。	教 授 加治佐 隆光^{※1} 准教授 森本 英嗣 准教授 近藤 雅秋	kajisa@bio.mie-u.ac.jp morimoto@bio.mie-u.ac.jp kondo-m@bio.mie-u.ac.jp

※1 の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

教 育 研 究 分 野	内 容	教 員	e-mailアドレス
地 球 環 境 解 析 学	地球環境解析学講座では、良好な環境を守り、自然災害から人を守るための知見を教授し、また知見を得るための研究を行っている。空間スケールとしては、小さな流域から地球環境までを対象とする。扱っている学問分野は景観生態学、景観設計学、地理情報システム学、水工水理学、河川水文学、気象学、地震学などで、研究手法としては、理論的考察、コンピュータによる解析が主であるが、流域観測や分析機器による分析も行う。	教 授 葛葉 泰久 教 授 大野 研 ^{※1} 准教授 飯島 慈裕	kuzuha@bio.mie-u.ac.jp oono@bio.mie-u.ac.jp yijima@bio.mie-u.ac.jp

※1 の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

2-2 環境・生産科学講座

教 育 研 究 分 野	内 容	教 員	e-mailアドレス
環 境 情 報 シ ス テ ム 工 学	人類が、他の生物と共生し持続的発展を図るため、本研究分野では、生物生態に関する知識を基に、高度な情報処理技術を核とした環境情報の計測・制御、環境評価、先端のシステム工学等を教育研究の手段とする。すなわち、環境改善に関連する各種プラントおよび環境共生技術について高度な教育研究を行う。また、次世代型精密管理手法に基づいた低環境負荷型技術を用い、革新的な生物資源生産法およびその加工法について教育研究を行う。	教 授 陳山 鵬 教 授 村上 克介 ^{※1} 教 授 王 秀崙 教 授 鬼頭 孝治 ^{※1} 教 授 森尾 吉成 准教授 福島 崇志	chen@bio.mie-u.ac.jp murakami@bio.mie-u.ac.jp wang@bio.mie-u.ac.jp kitou@bio.mie-u.ac.jp morio@bio.mie-u.ac.jp t-fuku@bio.mie-u.ac.jp
地 域 保 全 工 学	この分野では、地域住民の安全・快適な生活基盤を守ることを考えている。すなわち、 (1)自然環境の評価・修復・保全・管理、 (2)各種施設の設計・施工・維持管理、ならびに (3)自然災害に対する防災・減災手法の創出、 などがこの分野の主たる対象となっている。 これらについて科学的・工学的視点から取り組んでいる。	教 授 成岡 市 ^{※1} 教 授 酒井 俊典 教 授 保世院 座狩屋 教 授 岡島 賢治	narioka@bio.mie-u.ac.jp sakai@bio.mie-u.ac.jp zakaria@bio.mie-u.ac.jp okajima@bio.mie-u.ac.jp
生 態 系 循 環 シ ス テ ム 学	自然環境と人間社会を含む生態圏における持続的な物質循環システム・フードシステムや環境保全技術について、光計測や生物情報工学、土壌科学を駆使した多面的な教育研究を行う。	教 授 取出 伸夫 教 授 渡邊 晋生 講 師 坂井 勝	ntoride@bio.mie-u.ac.jp kunio@bio.mie-u.ac.jp sakai-m@bio.mie-u.ac.jp

※1 の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

3. 生物圏生命科学専攻

生物圏生命科学専攻は、生命科学全般に関する基礎的学理及び海洋の資源生物の育成・保全・管理に関わる学問を構築し、実践的教育を通じてそれを学生に修得させることを目指している。このため、本専攻では、個々の学生が資源生物の生命現象に関する基礎理論を生態系、群集、個体群、個体、器官、細胞、分子レベルで理解するとともに、生物科学の研究に必要な研究技法を修得するための教育・研究を行う。本専攻は、応用生命化学講座と海洋生物学科学講座の2講座から構成されており、それぞれの教育・研究内容は以下のとおりである。

3-1 応用生命化学講座

本講座ではバイオサイエンスとバイオテクノロジーの手法を用いて、陸や海に生息する動物、植物、海藻、微生物など広範囲の生物資源がもっている種々の栄養成分や生理活性物質などを有効利用するために、これらの生物が生産する分子の構造と生理機能を明らかにする。その成果を活用して新しい機能性分子や食品の開発、環境技術などに応用するための基礎的かつ応用可能な新技術体系の確立を目指す。さらに動物や微生物の遺伝子発現機構の解明、動物や植物の細胞の生理機能の解明、生物情報の処理技術の開発、食品の機能性の向上、健康維持や生活の質の向上、未利用生物資源の利用技術開発などを研究の中心として、化学的、生化学的、分子生物学的および生物工学的な観点に立って専門的な研究・教育を行う。

3-2 海洋生物学科学講座

本講座では海洋を中心として川や湖などの淡水域までの水圏を研究フィールドとしている。また、対象としている生物はプランクトンから、藻類、甲殻類、貝類、魚類、海生哺乳類まで広範囲にわたっている。それらの多様な生物の営みを遺伝子レベル、細胞レベル、個体レベル、群集レベル、生態系レベルで理解することを目指す。その手法として遺伝解析、生理生態学的解析、集団解析、行動解析、海洋観測技術等を駆使する。さらに、海洋や淡水域の生態系や生物多様性を保全し、魚類、介類、藻類等の水生生物を生物資源として持続的に再生産して有効利用する方法を教育・研究する。そして、資源としての適切な保全管理や効率的な増・養殖手法の技術開発を通じて、安定的な生物資源の利用により人の暮らしを豊かにすることを目指す。

3-1 応用生命化学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
生命機能化学	本教育研究分野では、食料、健康、医薬、生活、環境などの広範囲な領域において生物資源を有効利用することを目的として、動物・植物・微生物の多彩な生命現象の仕組みおよびこれらの生物が生産する物質の分子構造と機能を明らかにし、その成果を新しい機能性分子や食品の開発、環境技術などに応用するための理論や技法を確立することを目指している。そのために、新規機能性物質の構造と機能の解析および利用法の開発、動植物や微生物の遺伝子発現機構の解明、生物情報の処理技術の開発、未利用生物資源の利用技術開発などの研究を通して、化学、生化学、分子生物学および生物工学に関する高度に専門的な教育と研究を行う。	教授 奥村 克純^{※1} 教授 稲垣 穰 教授 寺西 克倫 教授 橋本 篤 教授 木村 哲哉 教授 梅川 逸人^{※1} 教授 荏田 修一 連携教授 大久保 勉^{※2} 連携教授 小関 誠^{※2} 准教授 竹林 慎一郎 准教授 三宅 英雄 准教授 増田 裕一 准教授 勝崎 裕隆 准教授 岡咲 洋三 准教授 磯野 直人 准教授 三島 隆 准教授 西尾 昌洋 連携准教授 安川 然太^{※2}	katsu@bio.mie-u.ac.jp inagaki@bio.mie-u.ac.jp teranisi@bio.mie-u.ac.jp hasimoto@bio.mie-u.ac.jp t-kimura@bio.mie-u.ac.jp umekawa@bio.mie-u.ac.jp karita@bio.mie-u.ac.jp stake@bio.mie-u.ac.jp miyake@bio.mie-u.ac.jp masuda@bio.mie-u.ac.jp katsuzak@bio.mie-u.ac.jp yozo.okazaki@bio.mie-u.ac.jp isono@bio.mie-u.ac.jp mishima@bio.mie-u.ac.jp nishio@bio.mie-u.ac.jp
海洋生命分子化学	本教育研究分野では、海洋に生息する微生物、魚介類、藻類等の種々の生物の生命現象を、生体分子・タンパク質や遺伝子・ゲノムなどのレベルから解析し、多種多様な生物分子やゲノムのもつ生理機能を明らかにする。これらの研究を基盤として高機能性食品、化粧品、疾病予防医薬品の開発に結びつけるとともに、それらの製造工程における衛生環境の改善や人類の健康生活の向上に貢献することを目的として、研究・教育を行う。	教授 柿沼 誠 教授 田丸 浩 教授 岡垣 壮^{※1} 教授 船原 大輔 教授 福崎 智司 准教授 伊藤 智広 准教授 大井 淳史 准教授 田中 礼士 准教授 岡崎 文美 准教授 柴田 敏行	kakinuma@bio.mie-u.ac.jp ytamaru@bio.mie-u.ac.jp okagaki@bio.mie-u.ac.jp funabara@bio.mie-u.ac.jp satoshi_fukuzaki@bio.mie-u.ac.jp titoh@bio.mie-u.ac.jp ooi@bio.mie-u.ac.jp tanakar@bio.mie-u.ac.jp okazaki@bio.mie-u.ac.jp shibata@bio.mie-u.ac.jp

※1の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

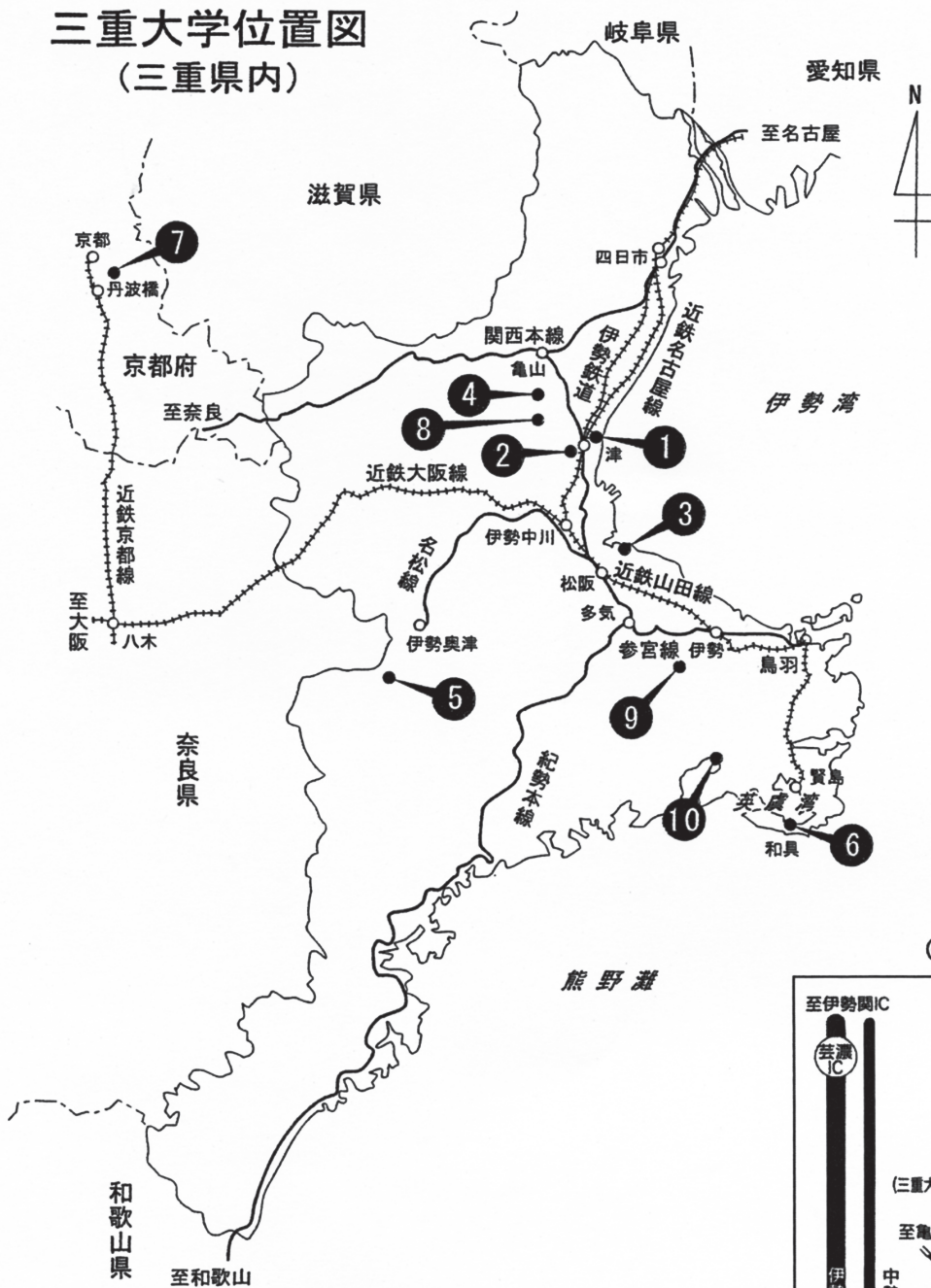
※2の教員の指導を希望する場合は、別途、生命機能化学教育研究分野・教授 梅川逸人（umekawa@bio.mie-u.ac.jp）まで申し出てください。

3-2 海洋生物科学講座

教育研究分野	内 容	教 員	e-mailアドレス
海洋生物学	海洋生物資源である魚介藻類の維持・増大や、海洋生態系の保全・管理は極めて重要な課題である。本教育研究分野では、海洋生物の多様性と生理、生態、病理、行動、遺伝などについて遺伝子、細胞、個体、個体群、群集、生態系といった種々のレベルで解析し、資源育成管理、漁獲、海洋生物の持続的有効利用法について、新しい技術体系を構築するために教育研究を行う。連携大学院・増養殖研究所においては、魚類の発生遺伝学、育種学および栄養代謝学を中心として多様性機能の解明とその有効活用に関する教育研究を行う。	教授 石川 輝 教授 神原 淳 教授 松田 浩一 教授 一色 正 教授 吉岡 基 教授 木村 妙子 教授 古丸 明 教授 河村 功一 教授 原田 泰志※ ¹ 連携教授 正岡 哲治 准教授 宮崎 多恵子 准教授 倉島 彰 准教授 筒井 直昭 准教授 淀 太我 准教授 森阪 匡通 准教授 金岩 稔 准教授 森川 由隆 連携准教授 宇治 督 連携准教授 村下 幸司	ishikawa@bio.mie-u.ac.jp kohbara@bio.mie-u.ac.jp hmatsuda@bio.mie-u.ac.jp isshiki@bio.mie-u.ac.jp motoi@bio.mie-u.ac.jp k-taeko@bio.mie-u.ac.jp komaru@bio.mie-u.ac.jp kawa-k@bio.mie-u.ac.jp harada@bio.mie-u.ac.jp tmasa@affrc.go.jp taeko@bio.mie-u.ac.jp kurasima@bio.mie-u.ac.jp tsu2@bio.mie-u.ac.jp tyodo@bio.mie-u.ac.jp chaka@bio.mie-u.ac.jp kanaiwa@bio.mie-u.ac.jp morikawa@bio.mie-u.ac.jp uji@fra.affrc.go.jp kojim@affrc.go.jp

※1 の教員の指導を希望する場合は、別途、生物資源学研究科事務室（学務担当）まで申し出てください。

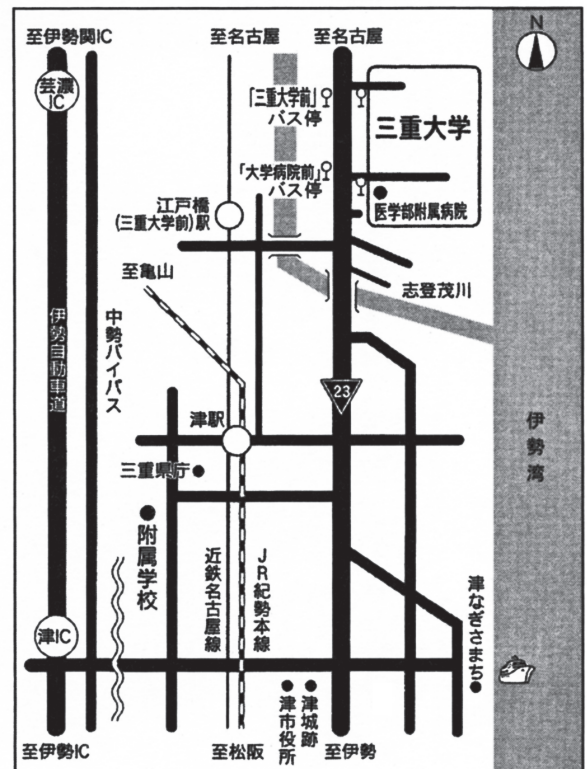
三重大学位置図 (三重県内)



- ① 三重大学
- ② 附属学校
- ③ 練習船基地
附属紀伊・黒潮生命地域
フィールドサイエンスセンター
- ④ 附帯施設農場
- ⑤ 附帯施設演習林
- ⑥ 附帯施設水産実験所
- ⑦ 森林総合研究所関西支所
- ⑧ 農業・食品産業技術総合研究機構
- ⑨ 増養殖研究所（玉城庁舎）
- ⑩ 増養殖研究所（南勢庁舎）

三重大学大学院生物資源学研究所
〒514-8507
津市栗真町屋町1577
TEL (059) 231-9631
ホームページ <http://www.bio.mie-u.ac.jp>

◎大学周辺拡大図



◎本学への交通案内

- ① 近鉄江戸橋駅（急行停車駅）下車 徒歩約15分
- ② JR東海、近鉄 津駅（特急・急行停車駅）下車
津駅前バスのりば（津駅東口）「4番のりば」からバスで約10分
三重交通バス「白塚駅」、「棕本」、「豊里ネオポリス」、「サイエンスシティ」、「三重病院」、「三行」、「高田高校前」、「千里駅」行きに乗車
「大学病院前」又は「三重大学前」で下車
- ③ 津駅からタクシーで約10分
- ④ 津I.Cから車で約20分、芸濃I.Cから車で約25分